

観測手引 (10)

太陽面観測報告法 (1)

以前伊達氏の手に依り、太陽面観測の根本的な點に就いて記述した。故に今度は東亞天文協會の報告用紙に記入する形式に關して記述して見る。若し報告用紙を持つて居れば、其れを見較べて欲しい。

1. 先づ観測者は何年、何月分の報告と云ふ事を記入する。
2. 次に観測者名を本名とローマ字双方で記入、観測地の東經、北緯は1度の $\frac{1}{10}$ 桁、又は分位迄記入する。次に器械、使用口径(太陽観測には絞りを使用する場合が多い)、倍率、方法を記入する。
3. 次に時刻は24時間制に従ふ(日本中央標準時)。シーインクは標準が採り難いが、とにかく各自の定めに従つて記入する(投影の場合は10階段に分ける事は細かすぎるかも知れない)。
4. 次に備考欄に其他特記すべき事があれば記入する。且つ缺測した日には雨、曇等の理由を記入する。この場合、暴風雨、雷雨、小雨等の細別は不要である。少しでも雨が降れば雨とす。然し、缺測は曇、雨等の天候に支配される謂はゞ不可抗力の場合の外に器械故障、旅行、病氣、多忙(この中には各自の特殊の事情がある)等の理由で生ずる。此の時には、一日中少しでも晴れ間があつて、観測が可能であつたが、折悪しく其の機會に見る事の出来なかつたのはすべて「缺」と記入する。缺測の理由は多忙、試験、出張等記入しても良いが、本来太陽黒點観測の報告であつて、個人生活の日記の報告ではないから單に缺として置けば事足りる。故意に観測をサボるのは感心しないが、人間生活を營んで居る以上、そう毎日支障なく見られるものではないから、強いて理由を強辯しなくとも良い。たゞ出来れば、晴間のある限り見るに越した事はない迄の事である。従つて、器械故障、病氣等もやはり缺の中に合せて良い。たゞ旅行だけは、自分の観測地が晴れであつたか、曇りか、雨か、其の點が不明であるから、旅と記入して良い。但し旅行と云つても、東京市内から同じ市内の別の場所へ出張するとか、大阪市外から市内に通勤して居る場合など、旅として記入する事は不當かと思はれる。大抵其の場合には雨、曇り、缺(主として多忙)のいづれに屬するかは判断出来そうである。だから旅は大阪のものが九州へ行つたとか、近くも名古屋か和歌山位に行つた場合にのみ記入する。以上を要約すれば曇、雨、即ち観測不能日と、缺即ち観測可能日と、旅即ち不明とに三別出来る。従つて、観測した日と、缺とを合すれば、其の観測地に於ける1ヶ月間の観測可能日が算出出来るわけである。

以上の4項目は相對數の報告以外に必ず記入すべき要項である。

5. 相對數報告 次に肝心の観測報告であるが、この中最も簡単なのは相對數のみの報告である。この事は、伊達氏の記事にあつた如く、相對數欄に $10g+f$ の數を記入して報告する。

以上が最も簡単な報告法であるが、相對數を報告する以上、必然的に黒點群と、黒點數は報告に記入する筈である。だから今述べた迄の報告の仕方は、現在の報告者の全部が一通りは行つて居る報告法である。(未完、木邊)